

一発検索くんの活用

—育みたい資質・能力を見極める—

学校教育課通信

令和4年 6月24日 第180号

編集・発行：県南教育事務所 鈴木正和

算数・数学科「一発検索くん」

活用への御礼とすすめ

年度末に各市町村教育委員会，小・中学校に送付いたしました，県南特製「一発検索くん」です。うれしいことに，この3ヶ月の間にお問い合わせや活用方法のアイデア等をいただいています。ありがとうございます。



一発検索くん（令和3年度版）

「学校のパソコンにうまく落とせません。交換できますか？」

「3・4年の単元においてリンクがはられていないところがありますよ。」

「小・中学校両方欲しいです！」

「（他管内から）うちの管内でも使わせていただけないでしょうか。」

「いつも使わせていただいています。評価問題に使えていいですよね。」

「それいいです！活用力育成シートのリンクも張られていたらもっといいです！」

「経験年数の長い・短いにかかわらず，どの学級の児童生徒にも適用問題として活用できるところが本当にいいですよね」

「学年の一覧表を印刷してもってほしいですよね。どの単元にどんな問題があるのかが分かると，単元計画や評価問題の作成に生かされますものね。」など・・・

各校の実態に応じて，あるいは各先生方の創意工夫によって，日々の授業に生かしていただいていることに感謝いたします。

今年度は，訪問の際などに，活用のアイデアを教えていただいたり，得た情報を域内に紹介・発信したりできたらと考えています。今後ともご意見・ご指摘・お問い合わせお待ちしております。

2学期	11. 平均	下20~27	5	H30 A4(1) 87.9% 問題 解説 H31	H29
	12. 単体量あたりの大きさ	下28~42	10	H30 A4(2) 50.3% 問題 解説 H29	H29
				H28 A4 72.2% 問題 解説 H29	H28
				H26 A4(1) 82.4% 問題 解説 H28	H27
				H26 A4(2) 61.0% 問題 解説 H27	H26
				H26 A4(1)(2) アイディア例 H26	R3 1(2)86.8% 短答式 問題 解説 R3 1(
				R3 1(3)56.0% 選択式 問題 解説	
				R3 1(5)85.2% 短答式 問題 解説	
	単元確認問題 問題と解答				
	○おぼえているかな？	下43	—		
13. 四角形と三角形の面積	下44~64	11	H29 A5 67.2% 問題 解説 H31	H31	
			H28 A5 82.1% 問題 解説 H31		
			R3 2(1)55.5% 短答式 問題 解説 R3 2(

一発検索くん「メニュー画面」のあとの各学年単元表

ぜひ見ていただきたいのは，「解説」です。「解答類型（どんなつまずきをしやすいのか）」や「学習指導にあたって」を貼り付けています。「つまずきのポイント」や「大切にしたい活動」の記載があるので，授業での児童生徒の見取りや問い返しに役立ちます！育みが必要な資質・能力の伸長に焦点化した授業研究にも使えると思います。ある学校さんは今年度校内授業研究を図形領域に特化して進めています。ここから見えてくることは，他領域・他教科の指導にも生きるはずですよ。

「児童生徒の実感に導く教師の働きかけ」

「～すると簡単になる」・・・算数のまとめによくある言葉です。

「簡単」「いつでも言える」・・・言葉でまとめることはできます。しかし、児童生徒のこの実感を生む状況づくりが難しいなあ、どうしたら授業の中で、「本当だ！だったらそうしたほうがいいね！」と納得していろいろな文脈でも使えるようになるか教材研究・授業づくりの難しいところですよ。

小学6年「分数のかけ算」でも、「計算の途中で約分できるときは、約分してから計算すると簡単になる」ことの学習があります（教科書 p 37 / p 45）。授業では、最後まで計算してから約分するのと、途中で約分する計算とを比較する活動を通して気づかせていくことでしよう。

きっと、教師は、

「どこが違うかな？」「はると（みさき）さんはどうやっているの？」

などと児童の表現を引き出しながら、途中で約分するといふ「わけ」を黒板やノートに顕在化していくと思います。大事な働きかけです。

一方で、児童の中には、

「約分できるときは、ってあるけど、約分できるときと約分できないときって何が違うのかな？」

「両方まざった問題が出てくるとできないよ」等と

不安やつまずきを抱いている子もいます。実際、授業内では途中で約分すると習ったけれども、適用問題になると最後まで計算してから約分しようとしたり、約分をしないまま提出したりする子が少なくありませんよね。

これは、やり方はわかるけれども、「どういう状況で使えるのかまでの理解」、そうしたほうがいい、という「よさの実感」が十分でないことが要因と考えられます（問題練習量、ドリルだけでは解決しないと思われます）。これらを授業の中で話題にし、納得・実感に至る機会を授業の中で一人一人に保障したいものです。そのための一工夫ですが・・・。

「約分ができるってどういうこと？」

$$\frac{8}{9} \times \frac{3}{10} = \frac{8 \times 3}{9 \times 10} = \frac{24}{90} = \frac{4}{15}$$

途中で約分すると同じ(公約数)の見やすいから簡単になる

$$\frac{8}{9} \times \frac{3}{10} = \frac{8 \times 3}{3 \times 3 \times 2 \times 5} = \frac{8 \times 1}{3 \times 2 \times 5} = \frac{8}{15}$$

↑教科書の表記

例えばこの式が入ると、「あー、だから最後まで計算しない方がいいんだね！」「計算すると約分できる同じ数があることが見えにくくなっちゃうんだね！」「だから、知っている九九が使えるうちに約分したほうがいいね」によりつながると思うのですが、みなさんの教室には合うでしょうか。いかがでしょう。

これは、訪問の際「どの子にも・・・」と願う担任の先生と懇談して生まれた授業の一工夫です。また別の訪問で話題にしたら、「共感！納得！」をいただきました。児童生徒は目に見えて、「ああ、本当だ。」と思えたら、おもしろがって、だったらこの問題でも使えそう！と使いたくなります。そういう児童生徒の姿って、私たちにとって励みですね。あらためて「いかにわかりやすく教えるか」だけではなく、「児童生徒は何に困っているのか」「どうしたら気づき・発見に至るか」から始まる教材研究の大切さを再認識した訪問でした。

児童生徒の実感に導く教師の働きかけ、また紹介したいと思います。